

スポーツ健康学部

FACULTY OF SPORTS AND HEALTH STUDIES



「スポーツ健康学部」は、新しい専門領域。 社会的ニーズの高い3つのコースで学びます。



資格

**独学や他学部では目指すのが難しい
様々な資格が取得可能です。**

本学部では、独自の「スポーツ健康学」を基盤として、スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、運営・管理、点検・評価できる人材を養成しています。高度な専門能力を身につけた人材を世に送り出すことは社会的使命と考えます。本学部の卒業生が、広く社会で活躍することを支える資格として、卒業後に取得可能な資格を、以下のように設定しています。

取得可能な資格

- 教員免許状「保健体育」(中学校一種、高等学校一種)
- (公財)日本体育協会公認 アスレティックトレーナー(養成講習会免除資格)
- (公財)日本体育協会スポーツ指導基礎資格(スポーツリーダー)
- (公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士(受験資格)
- (公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者(受験資格)
- 特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会 トレーニング指導者(受験資格)

卒業後の進路

**スポーツ・健康関連の
あらゆる業界でニーズが拡大中。**

内閣府が実施した「体力・スポーツに関する世論調査(平成25年)」によると、スポーツ振興に関する要望は、年齢層にあったスポーツの開発普及、指導者の養成、施設整備、スポーツ事業の開催、スポーツを通じた国際交流の振興、スポーツに関する広報活動等、多岐にわたっています。このようなニーズに応える専門知識と技能を身につけた本学部の卒業生は、各分野で幅広く活躍することが期待されています。

一般企業、スポーツ・健康関連団体

医療機関、福祉施設、プロスポーツクラブ、健康関連企業、スポーツ関連企業、NPO団体、マスコミ企業などで、健康やスポーツに関する企画、管理、指導等の業務

公務員、学校

スポーツ振興と健康づくりのための政策立案、運営、指導等の業務

大学、研究機関

国内外の大学院等に進学し、「スポーツ健康学」の専門研究に従事



スポーツと健康の科学

人は、ほ乳類という動物です。常に動いているのが動物であり、絶えず動きながらその生命活動を維持しています。その動きが不十分であると、様々な弊害が引き起こされます。近年、年齢を問わず、運動量が不足して、様々な問題がクローズアップされています。健康を維持するには、適度に身体運動を維持しなければいけません。

どうして動かないと様々な弊害がでるのか? どうして運動不足な人がいるのか? 人に運動させるにどう指導すればよいのか? 不足しているのは、柔軟性、筋力、持久力それとも? スポーツで生計を立てるにはどうす

ればよいのか? パフォーマンスを高めるにはどうすればよいのか? 等々。こうしたスポーツと健康の問題を考えていくのがスポーツ健康学部です。

スポーツ健康学部では、「ヘルスデザイン」「スポーツビジネス」「スポーツコーチング」の3コースが用意されています。一緒に、スポーツと健康について検証し、社会に貢献してみましよう。



スポーツ健康学部長 安藤 正志

カリキュラム

多彩な専門家、少人数教育、学習意識を高める科目などの特色があります。

	1年次	2年次	3年次	4年次
総合教育科目	外国語科目・視野形成科目			
専門教育科目	専門基礎科目(講義科目)			
	専門基礎科目(実技科目)			
	専門基幹科目			
	専門科目(ヘルスデザインコース)			
	専門科目(スポーツビジネスコース)			
	専門科目(スポーツコーチングコース)			
	専門演習			

教員紹介

教員と研究テーマ・ゼミナールテーマ (①専攻 ②研究テーマ・ゼミナールテーマ)

泉 重樹 教授

- ①スポーツ医学、アスレティックトレーニング
- ②体幹・下肢の動作解析と体幹筋活動解析、AT教育

井上 尊寛 専任講師

- ①スポーツマネジメント、スポーツ産業、スポーツ消費者行動
- ②プロスポーツクラブのブランド形成、スポーツにおけるCSR

苅部 俊二 教授

- ①コーチ学、スポーツ心理学
- ②身体運動と言語イメージに関する研究

鬼頭 英明 教授

- ①学校保健、健康教育学
- ②子どもの抱える現代的な健康課題の解決を目指した健康教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育

清雲 栄純 教授

- ①運動方法論(サッカー)
- ②地域スポーツクラブの機能と役割、サッカーを核とした「総合型クラブ」の普及・育成

高見 京太 教授

- ①運動生理学
- ②身体活動のエネルギー消費量、子どもの体力・健康づくり

成田 道彦 専任講師

- ①コーチ学、体育学
- ②指導者の育成と指導方法における研究

日浦 幹夫 教授

- ①スポーツ医学、脳神経科学
- ②運動負荷に伴う脳循環、神経受容体の変化

三ツ谷 洋子 教授

- ①スポーツビジネス、スポーツと女性
- ②スポーツとまちづくり、女性スポーツ、スポーツイベント、スポーツマーケティング、スポーツ施設

山本 浩 教授

- ①コミュニケーション論、ジャーナリズム論
- ②スポーツの構造

安藤 正志 教授

- ①健康科学
- ②運動学、運動療法

神和住 純 教授

- ①運動方法論(テニス)
- ②テニスにおける競技力向上、指導者の資質向上、生涯スポーツのテニス

木下 訓光 教授

- ①スポーツ医学、循環器病学
- ②スポーツ心臓、アスリートの突然死、持久系スポーツの医学、心肺運動負荷試験、メディカルチェック

永木 耕介 教授

- ①スポーツ教育学
- ②教材文化論、武道教育論

平野 裕一 教授

- ①スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学
- ②投打動作の分析、パワーアップの科学

吉田 政幸 准教授

- ①スポーツマネジメント、スポーツマーケティング
- ②スポーツイベントにおける集客、スポーツファン、スポーツレガシー

学部独自のポイント

新しい学問領域に挑戦する学生のための、ユニークな環境があります。

トップアスリートと 共に学ぶ

スポーツ健康学部には独自の様々な入試制度があります。
スポーツ競技での実績を評価するトップアスリート入試もその一つ。
世界の舞台で活躍するような学生と接し、ともに学ぶことも
貴重な経験となるでしょう。



学部専用のフィットネススタジオ

学生が快適にトレーニングできる
環境を、学生がつくる。

学部棟の中に、学部生専用のフィットネス
スタジオがあり、空き時間などに気軽に利用で
きます。施設の管理や運営、トレーニング補助
も学生スタッフが中心となって行っており、充
実した設備の中、日頃学んだ内容を活かして
います。



この他の
充実の設備は
裏表紙を
CHECK!

学びと連動した学生食堂

ヘルシーでおいしい学食は、
栄養学を楽しく実践できる場。

学費に食事代が含まれるため、学部生は現金
不要で昼食が食べられます。メニューはスポー
ツの国際大会でもフードサービスを実施する
業者に提供してもらっています。栄養素の表記
や健康チェックなどの取り組みもあり、楽し
みながら栄養バランス・体づくりの重要性に興
味が持てるよう、プログラムされています。



PICK UP student

スポーツビジネスコース3年
トップアスリート入試合格 (アイスホッケー)

床 秦留可 東京都立東大和高等学校 出身

- 2017年平昌五輪最終予選: 全勝で出場権獲得 (FW)
- 2017年アジア冬季競技大会: 全勝で優勝 (FW)

2歳上の姉がアイスホッケー日本代表として活躍しながら、スポーツ健康学部に通って
いました。大学での学びは競技生活に活かせるとよく話していたので、魅力を感じて入学し
ました。実際、授業を通して競技に必要な知識を吸収していると日々実感します。なかでも「スポ
ーツ心理学A」で競技とメンタルの関係性を学んだことは大変興味深く、さまざまな場面に活
かすことができました。また世界的に活躍する他競技の選手の話や話を聞くととても刺激になり
ますし、トレーナー活動やイベント運営など多様な角度からスポーツと関わる仲間と交流する
ことで視野が広がります。大学での学びや経験を糧に、2018年の平昌五輪でのメダル獲得を
目指します。



海外課外研修制度 [研修先] アメリカ合衆国・ポイシー州立大学

文化や言語の違いによる距離を
一気に縮めるスポーツの力を実感。

2週間の研修中、午前中はコミュニケーション力
向上に重点を置いた英語の授業を受け、午後は車
椅子バスケットやボルダリングなど多彩なスポー
ツを体験しました。思い出深いのは、現地の高校生とア
メフトをしたり、ポイシー州立大学で日本語を専攻
している学生と交流を図ったことです。スポーツ
を通して文化や言語の違いを縮められることを体感すると同時に、勇気と好奇心を持って実際に行動する
ことの大切さを学びました。貴重な体験ができたので、参加して本当に良かったです。



スポーツコーチングコース4年
阿部 美月
私立森村学園高等部 出身

ヘルスデザインコース

運動生理学をベースに、主に身体機能に関わる分野を学ぶ

2016年度ヘルスデザインコース卒業

新井 佑幸子

株式会社三井住友銀行 勤務

やりたいことは何でも存分に
実践できたので大満足の
4年間でした。

アスレティックトレーナー志望だったので、その資格を持つ先生のもとで存分に学ぼうと泉ゼミを選びました。ゼミでは2年次から一人ひとりが、肩、肘、腰など体の1部位を担当し、運動療法などテーマに沿った課題を発表します。私は膝を担当し、解剖学や生理学の視点も絡めて発表しました。卒業論文のテーマは「大学チアリーディング選手の静的・動的バランス能力の検討」です。現場実習先として帝京大学のチアリーディング部を選び、トレーナー活動を続けていたので、バランス能力を今後のチーム活動に活かすため、その基となるデータをまとめて研究しました。

ゼミ活動は学内外での実習が多く大変でしたが、常に指針となったのは「できるかできないかではなく、やるかやらないかだ」という泉先生の言葉でした。またゼミ仲間と夜遅くまで議論しながら勉強したことも懐かしい思い出です。大学時代にやりたいことはやり切ったという達成感を感じられるのは、このゼミに所属したからだと思います。今後はトレーナー活動で養ったコミュニケーション力を活かし、お客様に寄り添う行員を目指します。

私の4年間

1年次

高校の部活仲間のケガを契機にアスレティックトレーナーを目指し、本学に入学。同じ資格を目指す学生が集うサークルに所属する。

2年次

ゼミ活動が主体となり、学内イベントで救護を担当するなど実践を重ねる。図書館司書の資格取得のため必要科目を履修し始める。

3年次

「運動処方・負荷テスト」「スポーツ医学（内科系）」で内科の勉強を深める。学生トレーナーとしての活動が本格化し、多くの先生から指導を受ける。

4年次

卒業論文作成で資料を調べる際に図書館司書の勉強が役立った。キャリアセンターで丁寧に指導を受けた結果、銀行への内定が決まる。



機能解剖学、運動学、運動生理学など身体機能に関する分野のテーマを学びます。さらに身体活動やエクササイズに関する分野を学び、健康増進や疾病予防への理解を深めます。卒業後は、健康管理指導や、スポーツ活動への復帰、疾病や障害から社会復帰を目指す人のサポートなどの仕事で活躍が期待されます。

ヘルスデザインコースでは、身体の構造や機能に関する医・科学的理論を基礎に、ヒトの生命活動としての成長や老化、さらに日常生活活動、運動・スポーツ活動を科学的に学びます。同時に社会の健康関連諸制度に関する知識も修得します。これらの学びにより、医療機関やフィットネスクラブ等の健康増進施設、さらにはトップアスリートのスポーツ現場における運動・スポーツ動作指導のみならず、これらに関係する機関や組織の運営にも精通した、あらゆる立場から健康づくり・スポーツ活動を支援できる人材の養成を目指します。

泉ゼミでは、アスレティックトレーナー（AT）になるための学びが中心です。それは学生トレーナーとしてスポーツ現場において選手達を支える役割を担うということです。まず身体の構造（解剖）を学び、その後怪我（外傷・障害）やその評価方法、さらには失われた機能を回復するため、そしてさらなるパフォーマンスアップのためのエクササイズについて学びます。ATになるための学びは多様ですが、同時にスポーツ現場での実践も多く楽しい役割です。ゼミ生みんなで一生懸命学んでいます。

泉 重樹 教授

【専門分野】 スポーツ医学、アスレティックトレーニング

スポーツリハビリテーション実習



スポーツ障害の治療法を実地で体験

スポーツ障害の多くは誤ったトレーニング方法や偏ったフォームにより引き起こされます。肩、肘、腰部、体幹、骨盤、股、膝、足部関節に多発する代表的スポーツ障害を学び、その発生メカニズムや機能診断方法、リハビリテーション治療法を体験しながら学んでいく科目です。実技が中心の実習科目ですので人数制限を設け少人数制で学びます。この科目を履修するには機能解剖学、リハビリテーション概論、運動療法総論など基礎的な医学系の科目を履修しておく必要があります。

ジョギング・ウォーキング実習



身近な運動の効果と正しい指導法を学ぶ

故障しないための正しいフォームを身につけることから始め、実際に体験することで年齢・性別・体力・頻度によって運動効果に個人差があることを認識します。有酸素運動の運動効果を学び、子供から高齢者まで各年齢別に幅広く指導するための方法を学びます。

※紹介している授業は、2016年度実施のものです。

教員からのメッセージ

スポーツは生涯を通じた健康の保持増進や目標実現に大きく関わっており、スポーツ指導者が果たすべき役割と責任は以前にも増して重要になっています。このため、健康やスポーツに関する様々な知識やトレーニングの指導方法について、科学的な根拠に基づき学びを深めていきます。4年間の様々な学びを通じ、将来のスポーツ界を担う指導者、生涯スポーツの指導者、学校教育における保健体育科教員として、実社会で活躍が期待される人材の育成を目指しています。

ヘルスデザインコース 鬼頭 英明 教授

【専門分野】 学校保健、健康教育学



スポーツビジネスコース

スポーツ振興やスポーツ関連ビジネスの企画・立案・運営などを学ぶ

2016年度スポーツビジネスコース卒業

松原 千穂

アビームコンサルティング株式会社 勤務



データを収集し分析を行うことで論理的思考力が養われました。

小学生のときサッカー日韓W杯をスタジアムで観戦し、人々を熱狂させるスポーツの力に感動しました。将来はスポーツチームの経営に携わろうと本学に入学し、スポーツ業界の第一線で活躍されている先生が多いスポーツビジネスコースを選びました。井上先生のゼミに決めたのは、1年次の「スポーツビジネス論」でW杯の運営や経済効果などを学び、興味を持ったからです。ゼミでは、サッカー日本代表やJリーグの観戦者を対象に、来場理由や使用金額、スポンサーの認知度などを調査、分析し、観戦者のニーズや動向を探りました。

卒業論文のテーマは「スポーツ用品の選択基準について」です。価格、質、デザイン、ブランドなどを基準に、何を優先して購入するのか、多摩キャンパス4学部の学生250人分のアンケートを集め、考察しました。就職先は、Jリーグチームの運営などスポーツ支援に熱心なコンサルティング会社です。ゼミを通して培った論理的な思考力、分析力、プレゼンテーション力を活かし、幅広い業界で活躍できるコンサルタントを目指します。そしていつかスポーツビジネスの経営という夢を叶えたいです。

私の4年間

1年次

少人数制で学生と先生との距離が近く、アットホームな校風に惹かれて入学。体育会サッカー一部で、大会運営スタッフとして活動を始める。

2年次

専門科目が増え、スポーツビジネスの現状や今後の展開を学ぶ。「トップアスリート論」で、一流の現役選手の実態を知り、刺激を受ける。

3年次

「マーケティングリサーチ実習」でデータの集め方、扱い方、分析方法を学ぶ。大学サッカー日韓定期戦の統轄を任せられ、多忙を極める。

4年次

就職活動を通して日本経済の動きを理解できたのは有益だった。卒業論文のため、統計学的な分析方法を使ってデータを分析し、考察した。

スポーツ振興のための政策、事業としてのスポーツ運営・経営の方法などを対象に学びます。スポーツに関連したマネジメント、マーケティング、メディア戦略、イベントを通じたプロモーションなどのスポーツ普及・振興策を計画・運営・評価ができる専門能力を身につけ、非営利組織、民間企業で活躍できる人材を養成します。

「スポーツビジネス」という言葉を最近よく耳にするようになりました。例えば、メガ・スポーツイベントの放送権料やスポンサー料、プロ・スポーツ選手の移籍金や年俸など、スポーツとお金に関する話題は事欠きません。しかしながら、スポーツは誰も楽しむことができるものであり、私たちにとって、スポーツはとても身近で、することや観ることを妨げることは誰にもできません。このような特徴を持つスポーツを活用し、ビジネスを展開するためには何を考えなければいけないのでしょうか。また、スポーツ健康学部でビジネスを学ぶ意味や意義はどこにあるのでしょうか。

井上ゼミでは、広がりつつあるスポーツに関連する産業の問題点を把握し、合理的かつ科学的な根拠をもって解決の糸口を導くための知識や能力の習得をテーマに活動しています。具体的には、プロ・スポーツリーグでの調査や現場実習などを通して、理論だけでなく、スポーツを製品として扱うことの難しさや楽しさを肌で感じてもらいながら、スポーツビジネスを学ぶ意味や意義、スポーツの価値を高めるために自分ができることは何かについて、深く考察してもらいたいと思っています。

井上 尊寛 専任講師

【専門分野】スポーツマネジメント、スポーツ産業、スポーツ消費者行動

マーケティングリサーチ実習



Jリーグを通してマーケティングを学ぶ

ビジネスを実践していくうえで重要なことは、合理的な根拠をもって答えを導くことです。スポーツビジネスにおいては、スタジアムに来場する観戦者や施設に訪れる会員、商品を購入する消費者がどのような人で、何を求めているのかを知ったうえで、マーケティング戦略の策定を行います。この授業では、その答えを自ら導くための方法として、アンケート調査や分析の手法を詳しく学んでいきます。また、実習の現場として、Jリーグの試合で調査を実施しています。

スポーツイベント論



様々なスポーツイベントは、どのようにして実施されるのか

スポーツイベントは、世界が注目する大会の他にも多種多様な種類があります。関連スポーツ団体や広告代理店、各種企業、そしてマスコミも忘れてはなりません。イベントのあり方やその実情を学びながら、これからのイベントについて、皆さんと考えていきます。

※紹介している授業は、2016年度実施のものです。

教員からのメッセージ

スポーツの産業化が国際規模で進んでいます。特にメディアによるスポーツの国際化は、「みるスポーツ」として高い価値を提供できるリーグ、チーム、選手に人気が集まる状況を作り出しています。国内ではオリンピック選手のプロ化が進んでおり、それを可能にしているのもメディアを生かしたスポンサーシップやマーケティング活動です。スポーツをする、みる、知る、支えるなどの形で産業化させることに興味があり、将来はスポーツ産業で活躍したいと思っている学生をお待ちしています。

スポーツビジネスコース 吉田 政幸 准教授

【専門分野】スポーツマネジメント、スポーツマーケティング



スポーツコーチングコース

競技者の指導からチーム運営まで、実践的なノウハウを学ぶ

2016年度スポーツコーチングコース卒業

大瀬戸 一馬

株式会社安川電機 勤務

積み重ねてきた練習や知識を活かし東京五輪出場を目指します。

陸上競技者としてレベルアップが図れる最適な環境と、教員免許が取得できる点に魅力を感じて入学しました。初めは勉強と競技生活は別なものだ捉えていましたが、生理学やスポーツ心理学などの授業で筋肉の使い方やメンタル面を学ぶことができ、競技者としてステップアップできた実感しています。また陸上競技部の顧問である苅部先生は、理論的に説明されるので納得のいく練習ができ、自分を客観的に見られるようになりました。

ゼミも苅部先生のゼミで、卒業論文のテーマは「100mの加速局面のピッチ・ストライドが最大走速度に与える影響」です。競技をしている疑問に思ったことを解決するため、自分の走りを測定し、その数値を使って研究しました。考察のために多くの論文を読むのは大変でしたが、知識が増え、競技にも反映することができました。研究で得たことは、指導者になったときも活かせると思います。卒業後は企業に籍を置きながら競技生活を続け、東京五輪出場を目指します。多くの方に名前を知っていただける選手になり、その後は生徒の指導や選手の育成に携わることが目標です。

私の4年間

1年次

最新の設備や経験豊かな先生方、自由な校風に惹かれて入学。「生理学」で体の仕組みや動きを学び、陸上競技に活かせることは有益だった。

2年次

教職関連科目で多様な種目の指導法を学び、視野が広がった。日本選手権リレーに2走で出場し、優勝。リレー種目で初めて日本一となる。

3年次

「保健体育科教育法Ⅳ」で模擬授業を行い、実践的な学びができた。初のシニア大会となった世界リレー選手権に1走で出場し、銅メダルを獲得する。

4年次

高校で教育実習を体験し、教職志望の思いが強まる。日本学生個人選手権100mで4年ぶりに自己ベスト更新。関東インカレ200mで優勝。



競技力向上のための科学的なトレーニング方法や運動習慣を指導するための方法を学びます。豊富な学識や技術の伝達能力、チーム運営の基盤となる資金調達などの実務能力、スポーツを巡る倫理や社会貢献など、多角的視野で体験習得。チャンピオンスポーツ、生涯スポーツ、教育現場におけるスポーツ指導者を育成します。

スポーツコーチングコースは、学識と実践力はもちろん、人間性に長けたスポーツ指導者を育成するという観点から「スポーツ健康学」へのアプローチを試みることをコースの目標としています。スポーツ指導のフィールドには、トップアスリートやチャンピオンスポーツの指導から健康スポーツ指導、学校教育の指導など様々な指導現場が想定されますが、本コースにはそのいずれにも対応しうる多様なプログラムが用意されています。

ゼミではスポーツコーチング学の領域における学術研究、事例など多くの情報を収集し、多角的な視点から見識を広げ、それらをもとに調査、研究を行っています。スポーツコーチング学に関するあらゆる分野が研究対象であり、学生は各々興味のあるテーマについて研究に取り組んでいます。また、ゼミは勉強の場のみならず充実した大学生活をおくる場でも考えています。

苅部 俊二 教授
[専門分野] コーチ学、スポーツ心理学

サッカー指導論実習



サッカーというゲームの方向性を知る。

指導者は選手を昨日のサッカーに向けて準備させるのではなく、将来のサッカーに向けて準備させなくてはなりません。今、世界で何が起きているのか知り、初心者から熟練者までレベルに応じた指導法を学びます。

野外教育指導論実習（スノー）



雪上ならではの野外教育を学ぶ

ウィンタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、野外教育の指導者として活動するための基盤を身につけます。大学での講義とスキー場での実習（実技、ワークショップ）により構成されます。

※紹介している授業は、2016年度実施のものです。

教員からのメッセージ

身体を動かすことと頭を働かせることによって、スポーツ・健康についての知識を深めてもらいたいと思います。さらにスポーツのコーチを志す人には知識の幅広さも求められます。その意味ではコーチはGeneralistなのですが、深さを求めている部分はSpecialistであってもよいでしょう。その独自性が「売り」になるからです。この学部・コースにはこうしたコーチに必要な能力を高める機会がしっかりと用意されています。ここで得られた知識をスポーツのコーチングのみならず、自分の運動習慣など様々な役に立て、将来の質の高い生活に結びつけてもらいたいと思います。

スポーツコーチングコース 平野 裕一 教授
[専門分野] スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学



在学生の学び

スポーツ健康学部では、2年次より3つのコースから1つを選び、学びを深めます。ここでは各学年・コースごとにどのように学んでいるのか、学生の声を紹介します。(各コースの選択は、1年次の12月に実施します。) 4年次はそれぞれの学びを卒業研究へ発展させます。また就職活動も始まります。

1年次

ヘルスデザインコース 現2年
関 彩和子
長野県屋代高等学校出身



A1.心身相関に興味があったので「スポーツ心理学A」は面白かったです。性格の多様性という面から心理状態が競技に与える影響を学び、テニスの試合で実力が発揮できなかった自身の経験と重ね合わせることができました。また「運動療法総論」では、ストレッチや測定などを通して体の仕組みや健康維持のための手立てを学びました。

A2.陸上部の学生トレーナーとして活動しています。「機能解剖学」「アスレティックトレーナー概論」などの授業のほか、学内外のセミナーや勉強会で得た“学び”を現場で“実践”することにより、多くの気づきがありますし、多角的な視点で物事を見られるようになりました。今後はアスレティックトレーナーの資格取得を目指して、救急法やリハビリテーションなどの知識や理解を深めていきます。

3年次

ヘルスデザインコース 現4年
永井 光生
宮城県仙台第三高等学校出身



A1.「スポーツ現場実習」では、週に1回リハビリテーション実習室で怪我をした選手の物理療法や徒手療法、リハビリテーションを行いました。また体育会女子ラクロス部で学生トレーナーとして経験を積むことができ、実践を通してこれまで座学で学んだことの復習と新たな発見をすることができました。また「アスレティックリハビリテーション」などの授業で、実践で応用できるより専門的なスキルを学びました。

A2.英語強化プログラム(ERP)や海外課外研修(ボイシー州立大学)に参加して英語学習に力を入れた結果、TOEFLのスコアが前年より約30点アップしました。念願の派遣留学生に選ばれたので、4年次の夏から10か月間アメリカに留学する予定です。将来の目標はアメリカでトレーナー資格を取得し、現地で活躍することです。

Q1

1年間のスポーツ健康学部の授業で、学んだことや理解が深まったことは何ですか？

Q2

1年間を振り返って、授業以外で得たことや学んだことは何ですか？

2年次

スポーツビジネスコース 現3年
堀 友美
東京都立清瀬高等学校出身



A1.2年次からコースが確定し、ゼミもスタートしました。「スポーツマネジメント論」や「スポーツビジネス論II」では、国内の総合型地域スポーツクラブやプロスポーツリーグの運営、海外のスポーツブランドのマーケティングについて学びました。ゼミでは、スポーツが地域にもたらす効果を発表したり、男子サッカー日本代表はW杯アジア予選を突破できるか、各自の視点からディベートしました。

A2.体育会サッカー部に学生幹事として所属し、全日本・関東大学サッカー連盟のスタッフとして大会等の運営に携わっています。集客力アップのためにイベントを企画する際は、マーケティングの知識が役立っています。またスポーツ関連記事を掲載するWebメディア会社でインターンシップを行い、取材、執筆も経験しています。

4年次

2016年度スポーツコーチングコース卒業
梶内 大輝
神奈川県立鎌倉高等学校出身



A1.最終学年は取得単位が少なく、進学準備や卒業論文に時間を割きました。本学大学院へ進学するため、英語の勉強や研究計画書の作成、面接対策等を行う一方、卒業論文作成のため研究計画の立案、調査、分析、執筆に取り組みました。机に向かう時間が長かったので、「ジョギング・ウォーキング実習」などで体を動かすことは幸いでした。また教育現場を肌で感じられた教育実習も貴重な体験でした。

A2.大学院進学を見据えて体育学会やスポーツ心理学会に参加。他大学の先生から卒業論文のご指導をいただいたり、他大学の学生と交流を図ったことは刺激になりました。また出身高校の野球部で3年次から学生コーチとして活動。授業で学んだ生理学や心理学の知識・経験が役立った上、学びの定着にもつながりました。

取得できる資格紹介

専門性が高い学部だからこそ取得できる資格をご紹介します。難関資格を取得するための試験対策が充実しています。

アスレティック トレーナー 資格受験中

※客観的試験合格
※実技・論述試験結果待ち



2016年度
ヘルスデザインコース
卒業
鴫田 昌也

充実した学習環境のなか早い時期から勉強を始め目標を達成できました。

アスレティックトレーナーは、選手のケア、応急処置、栄養管理などを行う専門職で選手に最も近い存在です。資格取得には膨大な知識が必要なので、3年次の2月から勉強を始め、専門書が揃う資料室も活用しました。陸上競技部のトレーナーとして現場で活動していたことも知識の吸収に役立ちました。卒業後は本学部の大学院に進学し、将来は優秀なトレーナーの育成に携わりたいと思います。

アスレティック トレーナー 資格受験中

※客観的試験合格
※実技・論述試験結果待ち



2016年度
ヘルスデザインコース
卒業
菊地 紘平

海外で活躍するという夢を実現させるための第一歩となる資格です。

難関資格ですが、ゼミで筆記や実技の試験対策を行っていたり、同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨しながら良い環境で学べました。女子のプロサッカーチームで学生トレーナーとして活動した経験も役立ったと思います。卒業論文や実習と重なり多忙な時期に、いかに勉強時間を確保するかがカギですね。卒業後はドイツへ留学し、ブンデスリーガで活躍するトレーナーを目指します。

中・高保健体育 教員免許取得

2016年度
スポーツコーチングコース
卒業
相磯 郁美



教職課程センターの手厚いサポートにより採用試験に合格。

神奈川県高校教員採用試験に合格しました。3年次の秋から教職課程センターへ通い、最新の資料やまとめプリントをいただいたことが、効率的な勉強につながったと思います。対策として大事なのは、受験する自治体の試験傾向を把握することです。今後は、中学生にボランティアでバスケットを指導した経験も活かし、運動の得意・不得意に関係なく、全員が楽しめる授業を展開していきたいです。

健康運動指導士 試験合格

2016年度
ヘルスデザインコース
卒業
渡邊 温子



実習形式の授業が難解な内容理解に大変役立ちました。

健康運動指導士は、病院や施設等で効果的な運動プログラムを作成します。試験内容は生理学や医学の分野が多くて難解でしたが、「運動負荷テスト実習」などの実習形式の授業が、内容を理解するのに大変役立ちました。また先生にはどんな質問にも丁寧に答えていただき、感謝しています。就職先は電子カルテの企業なので、大学で習得した知識を活かし、医療従事者の右腕になりたいです。

スポーツ健康学部だから見えてくる進路がある。

中尾 遙伽 富士フィルムメディカル株式会社 勤務 (2016年度ヘルスデザインコース卒業)

柔軟な発想で自分にピッタリの仕事を見つけました。

2年次まではアスレティックトレーナーを目指して勉学に励んでいましたが、スポーツジムでインストラクターのアルバイトをしたり、糖尿病の子どものサポートするボランティアをしたり、病院実習でリハビリの方を支援するうちに、スポーツ以外の分野にも興味が広がりました。そして就活中に大ケガを負って入院したとき、今までとは異なる視点から病院を眺め、医療分野で自分の力を試したいと思うようになったのです。就職後は、医師や医療従事者を対象に医療機器の営業を行います。大学で習得した医療やスポーツの知識を活かし、医療の発展に少しでも貢献したいです。スポーツを多角的に学び、多様な経験をしたことが柔軟な発想を可能にし、就職に結びついたと感じています。



坂本 優太 株式会社札幌ドーム 勤務 (2016年度スポーツビジネスコース卒業)

大学での経験を活かし多様なイベントの企画に携わりたい。

スポーツ全般が大好きで、スポーツに関わる仕事に就きたいと考え入学しました。印象深いのは、ゼミでブラインドサッカー体験イベントを企画・運営したことです。大学入学後に初めて知った障害者スポーツでしたが、「自分自身で体験することが何よりも大事」との先生の言葉を胸に、参加者の立場に立って活動しました。イベントづくりの難しさはありましたが、参加者の笑顔に達成感を感じ、スポーツの素晴らしさを再認識しました。就活中は進路に迷った時期もありましたが、先生が親身に相談に乗ってくださり、友人の励ましもあって、初志貫徹でスポーツ関連会社に就職できました。就職先はスポーツをはじめ多様なイベントを開催する会社なので、大学時代の経験が必ず活かせると思います。

真田 悠生 株式会社日本経済新聞社 勤務 (2016年度スポーツコーチングコース卒業)

カリキュラムが幅広く進路の選択肢が多いので可能性が広がります！

当初は教職志望でスポーツコーチングコースを選択しましたが、次第にビジネス分野に関心が向き、山本先生のゼミに入りました。ゼミ合宿で千葉や長野のTV局を訪問するうちにマスコミ志望へ転換。インターンシップは、地方局や日本トップリーグ連携機構など6、7社で体験しました。なかでも印象的だったのは銀行でのインターンシップです。「日経の一面に載るような仕事をしたい」という行員の方の声を聞き、日本経済新聞社に魅力を感じるようになりました。就活に励んだ結果、地方局と日経から内定をいただき、最後まで迷いましたが、東京五輪を見据えて日経に決めました。私はスポーツ健康学部だからこそ多様な選択肢があり、可能性が広がりました。受験生の方は貪欲に挑戦し夢を実現させてください。



各分野で活躍する卒業生の声

富澤 佑也 公益財団法人日本体育協会 勤務 (2012年度スポーツ健康学部卒業)

スポーツ健康学部は自分の興味・関心を形にできる学部だと思います。1期生として入学した私たちは手探りながらもやりたいことを教授、事務局の方々とともに成し遂げできました。入学して終わりではなく、入学してからが始まりです。これから始まる生活は皆さんにとって将来の糧になるはず。

「日本体育協会」は日本のスポーツの総本山として、国民スポーツ推進を取り進めています。その中でも私は子どもたちを対象にした各種スポーツ大会、交流活動を実施しており、一人でも多くの子どもたちにスポーツを好きになってもらう、スポーツの喜びを感じてもらえるように日々努めています。今後は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、また、大会後のスポーツ推進を目標に私自身もさらに仕事に励みたいと思っています。これからスポーツ健康学部に入る皆さんとともに、様々な形で日本のスポーツ界を盛り上げていけることを楽しみにしています。



福田 麗 高村内科クリニック 勤務 (2012年度スポーツ健康学部卒業)

大学時代、「運動処方・負荷テスト」や「生活習慣病と身体活動」の授業を受けたこと、また自身のケガで入院生活を送ったことから、医療に興味を持ち、病院で働きたいと思うようになりました。

スポーツ健康学部は、健康運動指導士という保健医療関係者と連携し、運動プログラムの作成や実践指導計画の調整等を行う資格の養成校となっているため、私は在学中にこの資格を取得し、卒業後はクリニックで生活習慣病を持つ患者さんへの運動指導を行っています。様々な病気を抱えた方と接する責任のある仕事ですが、患者さんが運動を通して笑顔になる姿や楽しんでいる姿を見られることにやりがいを感じています。ゼミや授業で学んだ運動を科学することは、現在仕事をする上での思考の基盤となりました。

この学部は、様々なことにチャレンジする個性豊かな仲間がたくさんいる場です。視野を広げることで、きっと貴重な経験ができ、充実した4年間を送れると思います。



村井 里栄 ミズノ株式会社 勤務 (2013年度スポーツ健康学部卒業)

私が現在の職業を選んだ理由は、スポーツの可能性を伝えたい。という想いからでした。この学部で、するスポーツ・支えるスポーツ・観るスポーツ・ビジネスとしてのスポーツ...様々な角度からスポーツに触れた事でそう思うようになりました。

そして今は、大学・高校・スクール・企業等様々な方々にミズノの商品を紹介する営業の仕事をしています。この仕事を通して着るもの・使うものにも影響を与えるというスポーツの可能性をまた1つつけました。また職業柄、沢山の競技に関わります。この学部で実技を含めた皆さんの競技に触れた事、ヘルスデザインコースで学んだ技術や知識、スポーツビジネス系の授業で学んだ社会とスポーツの事すべてが仕事に活かされています。

ただ単に「スポーツが好き」だった私が、いろいろな角度からスポーツを紐解き、スポーツが好きだという芯に、沢山の肉付けができた事が学生時代の大きな収穫です。今後はミズノを通して、スポーツの可能性をもっと見つけると共に伝えていけるよう邁進していきたいです。

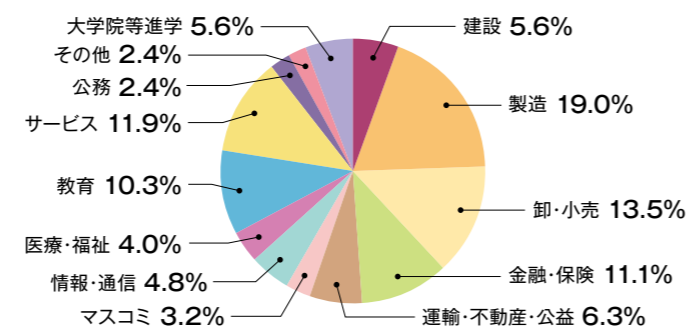


スポーツ健康学部生の進路について

スポーツ健康学部生の進路は多種多様。
スポーツ業界だけでなく、
各種分野で活躍しています！

※小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

スポーツ健康学部進路先業種割合 (2016年度 卒業生)



主な就職先リスト

- ロッテ ● 山崎製パン ● NEC ● ヤマハ発動機 ● 兼松 ● 国分グループ本社 ● 丸井グループ ● みずほフィナンシャルグループ ● 三井住友銀行 ● 横浜銀行 ● 三菱UFJニコス ● JR東日本 ● ANA ● ANAエアポートサービス ● ソフトバンク ● 日本経済新聞社 ● 大日本印刷 ● 凸版印刷 ● 札幌ドーム ● イトマンスイミングスクール ● 独立行政法人日本スポーツ振興センター ● 公益財団法人日本体育協会 ● 地方公務員 ● 教員

大学院進学

- 法政大学大学院 ● 東京大学大学院 ● 筑波大学人間総合科学研究科博士前期課程

「スポーツと健康」というテーマにふさわしい 気持ちのいいキャンパス。

緑豊かな美しい環境にある多摩キャンパス。その中でも高台にあるのが、スポーツ健康学部棟です。ゆとりを持って設計された空間には、専門性の高い学習に対応した施設・設備が充実しています。屋内・屋外のスポーツ施設では、多くの学生が休憩時間などにスポーツを楽しんでおり、スポーツ健康学部ならではの光景が広がっています。



スポーツ健康学部棟（多摩キャンパス）



食堂



学部棟内共用スペース



情報カフェテリア



個人ロッカー



運動実習室



リハビリテーション実習室



運動生理学実習室



陸上競技場

入試に関するお問い合わせ：入学センター TEL:03-3264-9300

法政大学 多摩キャンパス 〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

京王線 ●新宿駅から準特急で40分(急行で50分)、めじろ台駅下車、バスで約10分(「法政大学」下車)

JR線 ●中央線：新宿駅から快速で54分(特別快速で42分)、西八王子駅下車、バスで約22分
●横浜線：新横浜駅から38分、相原駅下車、バスで約13分(「法政大学」下車)

<http://www.hosei.ac.jp/sports/>

法政大学 スポーツ健康学部

検索

<撮影協力>法政大学スポーツ健康学部の皆さん

